

# 生命科学入門

科目責任者：川 瀬 撰（基盤教育部門（生物学））

## I. 前 文

人体の構造と機能を理解するためには、生命の基本単位である細胞を理解することが不可欠である。第1学年の必修科目である「基礎科学（生物学）」と「細胞の生物学Ⅰ・Ⅱ」では、世界的に頻用される教科書「Essential細胞生物学」をつかって、大学レベルの細胞生物学を学修する。そのため、高校までの生物の学修が不十分な学生や生物学に苦手意識のある学生が、基礎学力を補うために本科目を履修してほしい。

## II. 受入可能人数

人数は制限しない

## III. 担当教員

川 瀬 撰

## IV. 学習内容

第1学年の必修科目である「基礎科学（生物学）」、「細胞の生物学Ⅰ・Ⅱ」を理解するため、細胞や遺伝子、個体発生の基礎を学ぶ。オリジナルの書き込み式教科書に書き込みながら講義を進めるが、科目責任者との相談により希望のテーマだけの参加も認める（テーマ：生体分子、細胞と細胞小器官、細胞分化、DNAの複製と修復、遺伝子の発現、細胞分裂、個体発生、発生と科学）。

## V. 学修の到達目標

- ・生体分子の基礎的な事項について説明できる。
- ・細胞の構造・機能の基礎的な事項について説明できる。
- ・DNAの複製・修復の基礎的な事項について説明できる。
- ・遺伝子発現の基礎的な事項について説明できる。
- ・個体発生の基礎的な事項について説明できる。

## VI. 成績評価の方法・基準

教科書への書き込みの完成度を確認し、評価する。

## VII. 使用する教材・資料など

オリジナルの書き込み式教科書を配布する。それに赤、青、黒の3色で書き込みながら講義を進めるため、同じように書き込みなければ、3色の細いペンがあると良い。なお、色分けは評価に影響しない。

## VIII. 質問への対応方法

対面、電話、Eメールによる質問を随時受け付ける。対面による質問を希望する場合は、事前にアポイントをとること。電話（直通）：0282-87-2118,（内線）：2071, Eメール：osamuk@dokkyomed.ac.jp

## IX. 求められる事前学習、事後学習\*（ ）内は所要時間の目安

事前学習（10分）：教科書に書き込む必要はないが、該当部分に目を通しておく。

事後学習（15分）：該当部分を説明できるようにしておく。

X. コアカリ記号・番号

C-1-1), C-1-2), C-2-1), C-2-3), C-2-5)

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

教科書への書き込みの完成度を確保する際、理解度についても確認する。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

\*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	